

街路樹調査中間報告

高槻市の

# 街路樹



里山グループ

たかつき環境市民会議

## 調査までの経過

里山グループが都市緑化を課題として取り上げたのは、平成13年6月27日の会合であった。メンバーの一人から、街路樹・屋上緑化・壁面緑化などについて具体的な提案があった。これらの課題のうち、市民活動として取り上げやすいのは市道の街路樹であり、そこに焦点をあてて環境上の問題点をさぐることにした。

まず、市道・府道及び国道の街路樹の概要をしらべ、8月27日には市の道路担当者とは話し合いをもった。この間の調査活動をつうじて、街路樹の樹種・管理上の課題など、住民活動とは縁の薄い存在と考えていた街路樹にも、いろいろな面で住民との接点を見いだすことができた。

これらの点を客観的に把握し、グループ活動の方向として位地づけるためには、直接自分たちの目で確認しなければならないと考え、9月28日市道の「街路樹ウォッチング」をおこなった。10月26日には、大阪市立大学「附属植物園」の見学会を実施し、街路樹として植えられている木が、自然の状態ではどのような形を保っているのかなどを観察した。

こうした準備をしたうえで、11月・12月の二ヶ月かけて調査をおこないまとめたのがこの「中間報告」である。対象となっているのは、市道の街路樹の30%程度であろう。

短い期間の調査ではあるが、あえて報告書の形でまとめたのは、街路樹をとおして、市民が都市緑化の課題へ、どのような方法で接近ができるか、その展望をさぐり次の調査への土台をつくるためである。この二つの課題については、ささやかではあるが提示することができたと考えている。

## 調査報告

### 1 法令における植樹帯の基準について

道路における植樹帯の基準は、道路構造令第14条の4に定められている。即ち第4種第1級及び第2級の道路には、植樹帯をもうけるものとされ、植樹帯の幅員は、1.5メートルを標準とするものとされている。

#### 第4種第1級・2級の道路(抜粋)

計画交通量 道路の種類	一日につき	一日につき
	10,000台以上	4,000台以上 10,000台未満
一般国道	第1級	
都道府県道	第1級	第2級
市町村道	第1級	第2級

## 2 高槻市の基準

高槻市緑地環境の保全及び緑化の推進に関する条例施行規則第 16 条別表に、次のように定められている。

### 公共施設緑化基準 (抜粋)

公共施設の区分	緑化率
道路(歩道の部分の幅員が 2.5 メートル以上のもの)	10 パーセント以上

備考

(1) 2.5 メートルのうち、50 センチメートルが植樹帯に使用され、2 メートルが歩道になっている。

(2) 歩道の幅が 2 メートル以下になると歩行が窮屈になる。

## 3 市道に植えられている街路樹とその状況

樹 種	街路距離	本数	高低	欠損	街路名と 街路樹の観察状況
北側ナンキンハゼ 南側ヤマモモ	412m	73	中  低い	3 (4%)	富田北駅宮田線 ①北と南で樹種が異なる。景観形成の上ではマイナスになる。 ②ナンキンハゼは葉もよく茂り感じがよい。
ケヤキ ナンキンハゼ・サクラ 少数混じる	1Km	123	高い	2 (1.6%)	富田北駅宮田線 大きなケヤキである。その上部は電話線か通っており剪定のため樹形が悪い。樹形を保つための工夫が必要である。
アラカシ シラカシ・エンジュ 少数混じる	212m	67	低い	0	宮田塚原線 アラカシはまだ小さいが勢いがある。明るい街並みで歩きたくなる道である。
エンジュ	765m	142	中	16 (10)	宮田塚原線 周囲の大部分はたんぼで、特に車の多い道路ではない。しかし、木に元気がなく形も悪い。

エンジュ	675 (上に含む)	55 64	中 低い	17 (24) 0	宮田塚原線 木に元気がなく形も悪い。 小さい木であるが勢いがある。
アラカシ クスノキ ケヤキ	850	154 33 18	低い 中 中	7 (3.4)	美しが丘 201 号線 整備された街路で、木の勢い剪定ともによい。
イチョウ シラカシ・サクラ 少数 混じる	562	63	低い	18 (22)	萩の庄 309 号線 木が小さすぎる。勢いがない。 ジャスコの豊かな植え込みに圧倒されている感じである。
イチョウ	375	63	中	1 (0.2)	上田边上西線橋 木の枝張り・勢いがない。
ハナミズキ	675	105	低い	15 (13)	阪急北側線 木が小さい、勢いがない。
モチノキ イチョウ	500	120 11	低い 中	3 (2)	高槻駅松原線 北側 300 ぐらいカイガラ虫の被害が目立つ。それ以外は良い。

備考

$$\text{欠損率} = \frac{\text{欠損数}}{\text{総数(本数+欠損数)}} \times 100$$

(1) 街路樹の種類と構成比

街路樹の種類とその割合は次のとおり 10 種である。

補植されているごく少数の木は除外した。

樹 種	本 数	比 率
ヤマモモ	36	3.4
ナンキンハゼ	37	3.4
アラカシ	221	20.6
ケヤキ	123	11.5
エンジュ	197	18.4
サトザクラ	64	6
クスノキ	33	3.1
イチョウ	137	12.8

ハナミズキ	105	9.8
モチノキ	120	11
計 10	1073	

(2) 低木帯に植えられている木

アベリア・シャリンバイ・サツキ・クチナシ・トベラ・サザンカ・ツゲなどである。このうちアベリア・シャリンバイが 80%を占めている。いずれも勢いがよい。

#### 4 種類別に見た街路樹の評価

(1) 良い評価を得た樹種

アラカシ

調査対象となった街路樹のうち最も多く植えられている。街路が分散しているのできづかなかった。いずれも木に勢いがあり街をさわやかにしてくれる。歩く人を元気付けてくれる。

ケヤキ

高くのびたケヤキ並木は遠くから見ても、その下をあるいても開放感を与えてくれる。街路樹として魅力がある。調査員全員評価が高い。ただし、これはケヤキの枝がよく伸びている場合で、その上を電話線が走り、いびつな形に剪定されているケヤキ並木は、かえって街の景観を壊し、その下を歩く人を惨めな気分させる。逆効果をうんでいる。

ナンキンハゼ

若葉も紅葉も美しい木で、小枝も良く茂る。木の勢いもよい。中国原産の木であるが自生している木を見ることがある。すでに日本の風土になじんでいる。もっと利用してもいい木である。

サトザクラ

他の街路に植えられているのかどうかかわからないが、小枝がよく横にのびる。歩道の広い街路には面白い。

クスノキ・モチノキ

在来種でだれにもなじみのある木である。木に勢いがある。ただモチノキの場合、植えられている場所によって病虫害におかされ、木が衰弱する傾向がみうけられる。高槻駅松原線の場合や、街路樹ではないが JR 富田駅北側広場のモチノキなど無残な状態である。都市という環境に適応しにくい性質の木なのかどうか。グループの課題として追求するのも面白い。

(2) 評価の良くない木

ハナミズキ

木が小さく、勢いのないものが目立つ。枯れた木も多い。北米産であるため日本の風土に合わないのだろうか。公園でもよく見るが街路樹として適していると

はいえない。管理の難しい木という見方が多い。

#### エンジュ

:原産地の中国では位の高い木として尊重されているが、日本では粗末にあつかわれているという専門家もいる。アラカシに次いで多く植えられているが、宮田塚原線のエンジュは、ほとんど老衰の面影がある。

#### イチョウ

まっすぐに伸び、多くの枝をつけていることでイチョウの木のすばらしさがあり、それを見る楽しさがある。街路樹のイチョウは、ほとんど頂上が切られ、枝が落とされている。これではイチョウを植える意味がないのではないか。

### 5 ちぐはぐな街路樹

富田北駅宮田線の、線路沿い 400 メートルばかりの部分は、北側がやわらかいみどりのうつくしいナンキンハゼが植えてある。南側はみどりの濃いヤマモモである。このような違和感を与えるのは市街地の景観形成のうえで大きなマイナス要因である。

### 6 街路樹の太さ

街路樹の太さは、地上 130 センチメートルの部位の幹周りを測定した。30 センチから 50 センチのものが多し。ケヤキは全般的に幹が太く、エンジュがそれについて大きい。ケヤキでは 130 センチの木があった。逆に小さいのはハナミズキで 13 センチの木があった。

大きくなつたケヤキが杭の丸太を幹の中に取り込んでしまつたものを 3 本見つけた。ケヤキは大きくなると根の部分が盛り上がり周囲の道路舗装を壊すようになる。富田北駅宮田線ではこのような箇所がいくつも目についた。道路幅と街路樹との関係として注意しなければならない点であろう。

### 7 街路樹の高さ

和風住宅の一階の屋根の高さを	低い
二階の屋根の高さを	中
三階の屋根の高さを	高い

という基準を定めた

街路樹には低い木が多い。市道の場合、調査の対象となつたのは 2 車線道路ばかりであつたから当然であろう。高い木はケヤキだけであつた。中木はエンジュ・クスノキ・ケヤキで、いずれも高い木に育つ性質をもっている木ばかりであつた。

### 8 樹間距離

樹間距離も調査の対象として取り上げたが、交差点・電信柱などによって変わつ

てくるので調査結果に積極的な意味を見出すことはできなかった。長いのは8メートル、短い場合は3.5メートルであった。6・7メートルが平均であった。

### 調査のまとめ

- 1 今回の調査通じて強く感じたことは、街路樹は全般的に元気がないことである。個別的な観察記録で、アラカシ・ナンキンハゼなど小さな木が元気だと報告した。これはあくまで街路樹のなかでの相対的な評価である。

街路樹が植えられている都市環境は、周囲をコンクリートで覆われたせまい地面と、排気ガスにさらされた空間であった。その中で木が元気に育つためには、①このような環境でも育つ樹種の選定をあやまらないこと。②選定された樹種に適した管理を怠らないこと。この2点が重要であろう。

ケヤキ・アラカシ・クスノキ・ヤマモモなど、この地域で生育している樹木は比較的元気であったことは重要な教訓である。

- 2 自然の状態で生えているとき、樹木は本来の樹形をたもっている。ところが、都市という環境におかれると、周囲に電線・電話線・建物があり、そのうえ多数の市民の生活が密接にからんでくる。そのため、樹木本来の樹形をたもつのがむずかしくなってくる。

樹形を失った街路樹は、都市景観上かえってマイナスである。グループ内の討議で、丸坊主にされた街路樹がしばしば問題として取り上げられた。これは、樹木が人々に与えると期待されている緑の快適さをうばってしまうからである。快適さの要素として、みどりの色の他、樹木の勢い・元気さそして樹形は十分考慮しなければならない。ケヤキ・イチョウ・エンジュなど、大きな木にこのような問題がみられる。いかにして樹形をたもつか。今回の調査をつうじて発見した課題である。

- 3 低木帯について

- ①高槻駅松原線のサザンカは、高さ30センチばかり積み上げられた花壇状の植樹帯に植えられている。なぜここだけなのかという疑問がのこる。
- ②富田北駅宮田線のケヤキ並木の下での低木帯には、市民が植えたのであろう、わずかにヒラドがみられるだけで、雑草と黒土という状態である。建物が左右から迫り、上は街路樹で日光がさえぎられている。低木も育ちにくい環境である。
- ③宮田塚原線の名神高架の北側数メートルはアベリアが全くなくなっている。南側は50メートルのうち、ところどころ、街路樹も低木帯もなくなっている。今回の調査の中で、最も荒れた場所である。
- ④低木帯の一部を、庭の延長として、草花を植えているところが目についた。街路

樹の管理に市民を誘導するヒントになりそうである。

### 今後の調査について

今後の街路樹調査は、中間報告の中で見出した問題点について、市民がどのように関わっていくことができるのか。その点について考える必要がある。

具体的には次のような問題が指摘できよう。

1 樹木の欠けているところへの補充

直接市民が植えるか、あるいは補充のための樹木を育てて提供するか。方法については今後の課題であるとしても市民の関与が力になるだろう。

2 この場合、樹木の種類・大きさが課題になろう。

3 街路樹に自然の樹形、したがって自然の樹木が与える快適性を求めるのは無理である。逆に、人工的な樹形についてどの程度まで容認するか。剪定された多くの街路樹の中に、容認できる樹形のモデルを探し出すことはできるのではないか。その樹形見本を公表し市民の意見を聞き、道路管理の上に生かすことはできないか。

4 低木帯の中に、地区の好みに応じて、ヒメリンゴ・カリン・ツバキその他の花などを育てることを認めてもよいのではないか。そのかわり責任をもって低木を管理すること。

平成16年7月18日

編集 たかつき環境市民会議

里山グループ